



汗を落ち着かせる効果あり

竜骨 牡蛎

眠りが浅い  
夢見が悪い  
寝汗をかく

甘草 生姜 桂皮 芍薬 大枣

桂枝湯：ゆったりとお湯につかっているような心地よさを与える

生龙骨 牡蛎  
生姜 (自备)

漢方

26

桂枝加竜骨牡蛎湯

#ストレス #イライラ #不眠  
#神経症 #子供の夜泣き  
#パニック障害 #自律神経失調症

体力があまりない  
フケや脱毛  
冷えて眠れない  
イライラしやすい  
神経過敏  
更年期障害  
寝れやすい  
性機能低下

【桂枝加竜骨牡蛎湯が向く人】

## 方剤解説

# 桂枝加竜骨牡蛎湯の解説

黄 懐龍

## 一、營衛調和とは

《内経》「陽は外にあり、陰の使であり、陰は内にあり、陽はそれを守り」と述べたように、衛気は陽に属し、衛外の機能が持ち、営気は陰に属し、栄養的作用があり、營衛調和即ち陰陽平衡である。

## （一）生理状態（営衛調和）

正常は、衛陽が外を固摂して営陰を内守し、衛陽は営陰に依存して全身巡っており、営衛は協調しあって、相互に依存しあって、営衛調和、陰陽互根の生理状態を維持している。

## (二) 病理状態 (営衛不和)

**衛強営弱**：邪が肌表を犯し衛陽が浮盛開疏し、営陰が固摂されなく外泄して、臨床表現として時々発熱し、汗をかきの状態である。衛気が肌表で邪気と戦い、衛陽が浮盛している状態を「衛強」といい、営陰が外泄され、汗が自ら出て、脈を充盈できないことを「営弱」といいます。治療は桂枝湯を用いて正を扶けて邪を駆逐し、営衛を調和せることになる。

**衛弱営強**：衛外の陽気が弱く、外を固まる力を失っているため、汗が勝手に溢れ出し、臨床症状としては体に熱はないが、時々自然発汗が起こる。

## 二、桂枝加竜骨牡蛎湯の組成と応用

### (一) 組成と特徴

#### 桂枝加竜骨牡蛎湯 《金匱要略》卷上

桂枝加竜骨牡蛎湯は調和営衛の桂枝湯に重鎮安神、潜陽固渋の竜骨、牡蛎を加えて組成された調和陰陽、潜鎮摂納の陰陽調和剤である。

組 成	桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草、竜骨、牡蛎
効 能	安神固渋、調和陰陽
主 治	陰陽失調、心腎不固

## ・原 典

### 《金匱要略・血痺虚勞病篇》

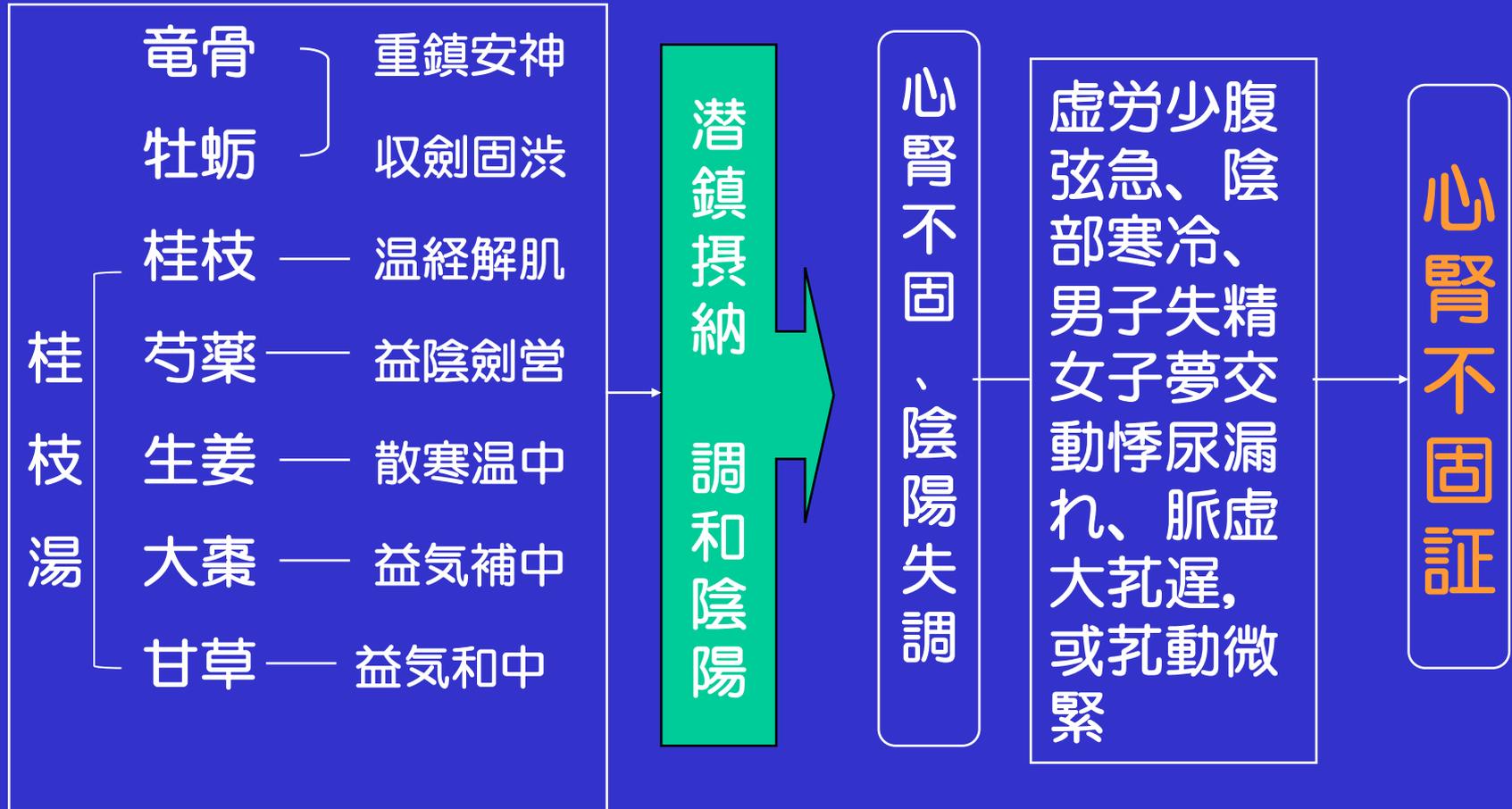
- ・「夫れ失精家は、少腹弦急し、陰頭寒え、目眩し、髪落ち。脈は極虚し芤遅、清穀乏血失精をなす。脈は諸を芤動微緊に得、男子は失精し、女子は夢交す。桂枝加竜骨牡蛎湯之を主る」。

## (二) 処方解説

本方は調和営衛の桂枝湯に安神固澁の竜骨・牡蛎を加えた方剤である。

処方中に桂枝の通陽と芍薬の斂陰より通陽固陰、営衛を調和し、甘草・生姜・大枣より中焦の営衛化源を補充振奮して、更に安神平肝固澁の竜骨・牡蛎を加えて、心神安寧、精気固摂して、陰と陽、興奮と抑制のバランスをとることにより、臨床的効果を発揮する方剤である。

# 桂枝加竜骨牡蛎湯の構成と応用



### (三) 作用機序の考察

本方は陰（営）陽（衛）を調和する桂枝湯に安神固澁の竜骨・牡蛎を加えた処方、不安、驚きやすい、動悸、多汗、不眠、遺精、夢交などを改善する安神固澁剤である。

- 1) 安神：鎮静、安定に働き、不眠、多夢、動悸、神経過敏などに効く。…竜骨、牡蛎、芍薬
- 2) 鎮痙：熄風止痙に働き、内風によるめまい、ふらつき、痙攣、引きつり、震えなどを改善し、少腹弦急平滑筋の鎮痙、鎮痛にも働く…芍薬、竜骨、牡蛎、枳実
- 3) 固澁：収斂固澁に働き、身体の気血津液の漏出を止め、自汗、寝汗、遺精などに効く。…竜骨、牡蛎
- 4) 健脾：消化吸収機能を正常化させる。…大棗、生姜、甘草
- 5) 散寒：温経補陽、身体を温め冷えを改善する…桂枝、生姜

## 三、桂枝加竜骨牡蛎湯の臨床応用

### (一) 主 治

- 虚勞、少腹弦急、陰部寒冷、目眩髮落、男子失精、女子夢交、或心悸、遺溺，脈虚大芤
- 遲或芤動微緊。

## (二) 応用ポイント

**陰陽虚弱**：疲れやすい、元気がない、眩暈顔色艶が悪い、腰膝怠い、眼精疲労、脱毛など。

**心神不安**：動悸、失眠多夢、煩躁驚狂、神経質小児夜なき、自律神経失調症など。

**心腎不固**：自汗盗汗、遺精滑精、小便失禁、夢交、精力減退、インポテンツ、性機能障害、小児夜尿症など。

## (三) 臨床応用

陰陽失調、心腎不固によって生じた多汗、驚き易い、遺精、夢交、下腹部の両側が拘急痛、陰頭の冷え、めまい、動悸、不眠、脱毛、遺尿、舌淡・苔白など。

1. **神経症**：自律神経失調症、動悸、多汗症、不眠症、ヒステリー、不潔恐怖症、夜間譫妄、癲癇など
2. **泌尿器**：性機能障害、夜尿症、インポテンス、遺精、加齢性腺機能低下症（LOH症候群）など。
3. **消化器**：摂食障害、過敏性腸症候群、慢性下痢など。
4. **婦人科**：更年期障害、月経前症候群、不妊症、切迫流産など。
5. **その他**：心因性疼痛、舌痛症、鼠径部痛症候群（グロインペイン症候群）など。

## (四) 加減応用

- ①気虚者に、人参、黄耆を加え、或は補中益気湯と合方して、益気補虚する。
- ②血虚者に、当帰、熟地黄をえ、或は四物湯と合方して、滋補陰血する。
- ③腎虚者に、何首烏、山茱萸を加え、或は六味丸と合方して、滋補腎精する。
- ④遺精者に、山萸肉、金櫻子を加え、或は六味丸と合方して、補腎收斂固澁する。

## (五) 使用注意点

臨床では、心腎虚熱、ほてり、口渇、発熱、舌紅、苔黄又無苔などの熱証に使用しないこと。



ご清聴ありがとうございました！